

令和元年度実証実験 進捗状況

令和元年10月25日

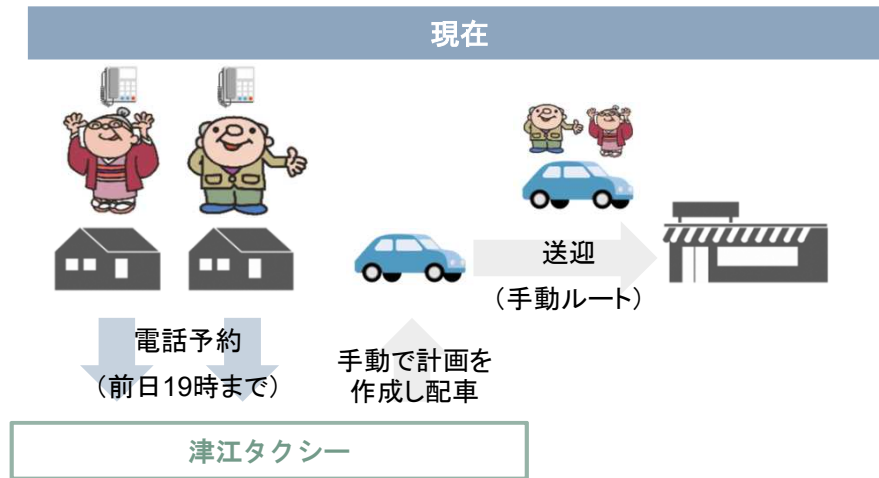
次世代モビリティサービスの在り方に関する検討会
事務局

高齢者の移動手段の確保

実証実験①「高齢者の移動手段の確保」(概要)

日田市の「市営上津江・中津江デマンドバス」に、モネ・テクノロジーズ(株)のシステムを導入し、
利便性・効率性を向上

【現状】日田市営デマンドバス(手動管理)



■ 利用者

- 前日19時までに予約しないとイケない
- 電話のみ予約対応。確実に予約できたか不透明
- 正確な車両到着時刻が不透明

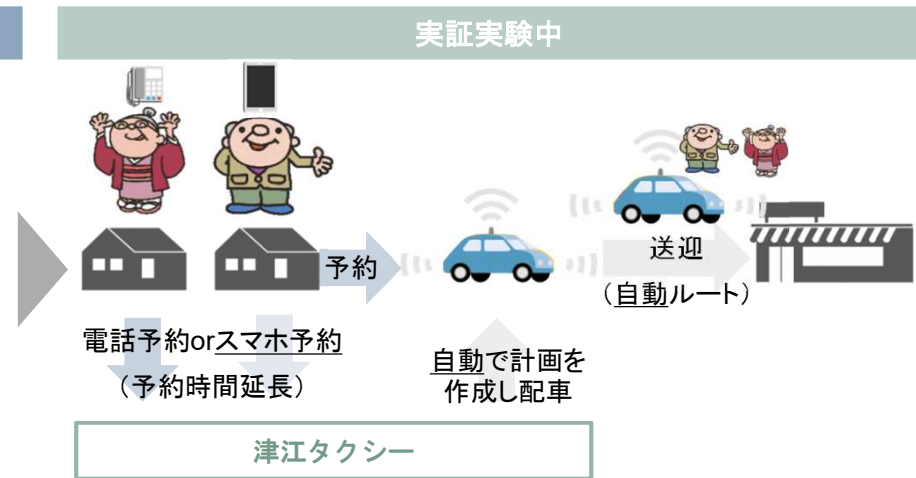
■ タクシー事業者

- 電話受付+紙ベースで顧客情報を管理、社長が配車計画作成
- 急な予約の対応困難(前日予約が原則+至急の調整困難)
- 日報・月報をまとめる手間が発生

■ 日田市

- 利用者について「延べ人数」しか分からず、「実人数」が不明
- 利用者増加が困難な状況

【実証】デマンドバス×モネシステム(自動管理)



■ 利用者

- 受付自動化により予約時間の延長が可能
- スマホアプリで予約状況が分かる
- スマホ画面に車両位置が表示される

■ タクシー事業者

- 顧客情報がデータベース化され、誰でも配車計画の作成可能
- 急な予約も、車両の端末にリアルタイムで反映
- 日報・月報が自動作成

■ 日田市

- 詳細な外出回数等が把握でき、次なる対策の検討が可能
- 利便性向上による利用者及び収入の増加が期待

実証実験①「高齢者の移動手段の確保」(詳細)

搭載車両

ワンボックスタイプ 2両
ハイエース 2両

※代替車両が別途1両あるが、
基本的には4両体制

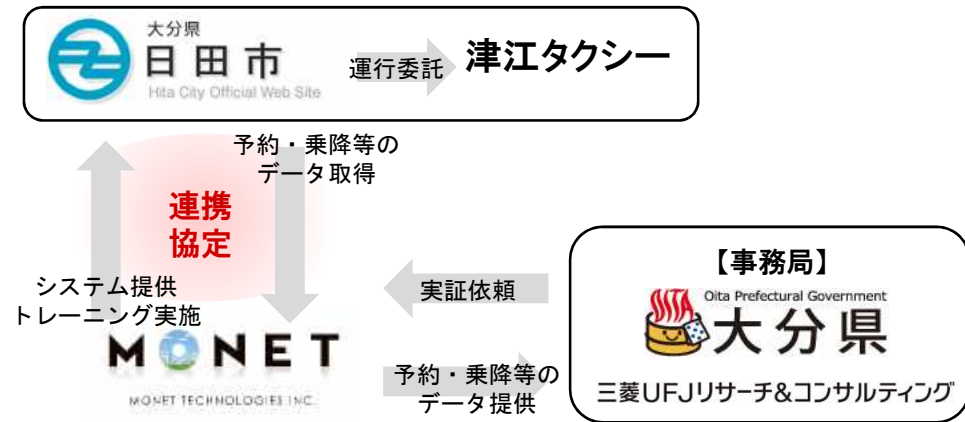


実施体制

- ・実証実験にあたり、日田市とモネ社で協定を締結し、日田市が所有(津江タクシーに運行を委託)するバスにシステムを搭載する。
- ・今後、事務局(県)、日田市、モネ社、津江タクシーで連携し、システムの構築や実証周知活動を行う。
- ・実証データは継続性等を判断するため事務局で分析する。

対象エリア

日田市上津江・中津江地域



導入・完了までのスケジュール

- | | |
|-------------|----------------------|
| 10月3日 | モネ社よりシステム構成の具体内容の提案 |
| 10月29日 | システム仮案のデモ |
| 10月下旬～11月上旬 | 日田市×モネ社の連携協定 → 協定後取付 |
| 11月中旬～1月上旬 | 利用者周知・運転手トレーニング |
| 1月中旬～2月下旬 | 実証実験の実施(約45日間) |
| 3月中旬 | 検討会にて実証実験の結果報告 |

事業所間の連携促進

実証実験②「事業所間の連携促進」(課題等ヒアリング中)

福祉施設等に次世代モビリティサービスを導入し、
通所送迎の利便性・効率性を向上

課題

【送迎コスト関連】

- ・職員が送迎を行っておりかなり負担となっている。
- ・日頃運転しない大型車での送迎は不安との声あり。
- ・1台に2人職員を付けたいが職員数にも限界があるため、可能な限り1名にしている状況

【配車計画関連】

- ・曜日で固定されていない利用者もいるため配車計画が難しい。
- ・利用者同士のトラブルもありそこも配慮しないといけない。
- ・入居者増加や送迎範囲拡大があると配車計画の作成が困難。

対応策(実証次世代モビリティサービス例等)

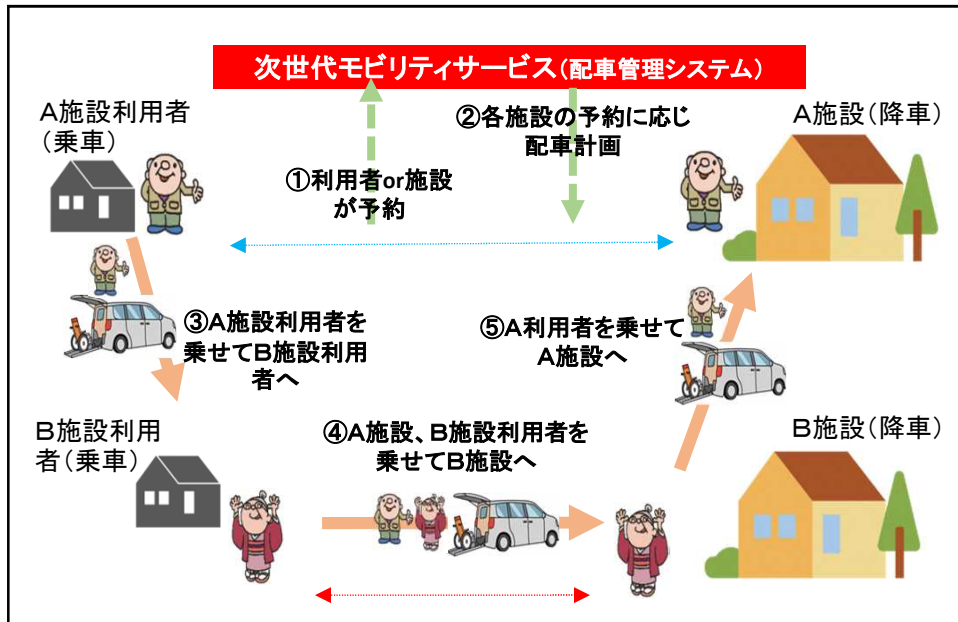
【送迎コスト関連】

- ・費用対効果を考慮した上で、送迎を交通事業者に委託。
- ⇒安全な送迎が実現。職員の負担も軽減
- ・施設間で連携した乗り合わせ等による送迎を実施。
- ⇒送迎に伴う稼働台数・人数の削減

【配車計画関連】

- ・配車計画をシステム化
- ⇒ルート、乗り合わせ、相性等を考慮した配車計画を自動作成
- ⇒施設毎の情報をとることで、複数施設での連携へと発展を期待

実証実験イメージ①(複数施設での通所送迎効率化)



実証実験イメージ②(配車計画効率化・データ収集)

① 送迎前

誰でも簡単に最適な送迎計画が可能

② 送迎中

施設とドライバーの相互連携

③ 送迎後

送迎業務の見える化で業務を改善

(出所)ダイハツ工業株式会社「らくぴた」